

美咲

黄福物語

ーんぷくものがたりー

黄福物語 第一章

「美咲流“たまごかけごはん”」

誰もが一度は、そしてこの家庭でも味わうことができる“たまごかけごはん”だが博ることなかれ、美咲町で食すと一味もふた味も違う。

シンプルな料理だけに食材が大切。

毎日町内の養鶏場から新鮮な「赤玉」を入荷。

ご飯は町内の神田で栽培された神田米、「醤油」も地元産を使用。さらには弊も増し、油を使用するなど、すべて「美咲町産」にこだわっている。

また美咲町出身の明治時代を代表するジャーナリスト岸田吟香が「たまごかけごはん」を愛好し、日本に広めた縁があることに着目。このことから「たまごかけごはん」を「美咲流」の物語に。

これが美咲町産の「黄福物語の第一章」なのです。

the 1st.

Simple is Best



黄福物語 第一章の主人公
郷土の偉人 岸田吟香

「我が国の新聞界の革命」「日本で最初の証書記者」など数多くの先駆的な業績を残し、ジャーナリズムの土台を築いた人物が、美咲町出身の郷土記者です。吟香が生いた、ことなかれした食事が、今では、全国どこでも簡単に食べられることである（たまごかけごはん）が、その一つです。彼の存在がなかったら、今のようには日本を「黄福」色に彩色する術を知らずして生きていたかもしれない。まさに彼は人を「黄福」な気持ちにさせる「たまごかけごはん」を全国に広めた人物なのだ。

Yellow Project of MISAKI

検索キーワード 岡山県美咲町

検索